

# 慢性肝疾患におけるKupffer細胞機能の多面的評価と肝機能との関連

## 【研究対象者の方へ】

本研究は、九州大学病院で肝悪性腫瘍が切除された症例の中で、術前にSPIO-MRIが施行された方（期間：2006年から2008年）を対象に研究させていただきます。  
もし、対象者となることを拒否される方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## 【はじめに】

SPIO(super paramagnetic iron oxide)は肝のKupffer細胞（免疫を担当する細胞）に取り込まれる造影剤であり、投与前後にMRI(T2\*強調画像)を撮影してその信号低下度を計測すれば、Kupffer細胞の機能（貪食能）が定量化できます。その一方で、在住マクロファージの中には、免疫応答に伴って大きさや形態が変わるものが報告されています。脳に存在するミクログリアがその代表ですが、Kupffer細胞の大きさや形態に関してはこれまで研究されていません。さらに肝硬変の患者さんではKupffer細胞の機能が低下する可能性も言われています。

## 【研究内容】

SPIO投与前後の信号低下度と、切除された肝臓の病理スライドを使って、Kupffer細胞の大きさや形態を比較します。この結果を使って、実際の患者さんの肝機能との比較を行います。

## 【研究期間】

研究を行う期間は2010年までと考えています。

## 【医学上の貢献】

Kupffer細胞機能の評価法を確立することが第一の目的ですが、これらの手法を使って肝機能も間接的に推測できる可能性があります。SPIO-MRIは一般に肝腫瘍を詳しく調べるために用いられていますが、肝機能も同時に推測できるのであれば、さらに有用性が高まると考えています。

## 【研究機関】

九州大学大学院 臨床放射線科

教授 本田 浩

助教 西江昭弘

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel 092-642-5695